

尼崎市立若葉小学校 平成26年度 学校評価

- 1 教育目標・めざす児童像 ・若い芽を伸ばす子=たくましく（強い体） ・考えを深め合う子=かしこく（強い頭脳） ・場を美しく、心豊かな子=やさしく（強い心）
- 2 めざす学校像 ・わくわく心がはずむ楽しい学校 ・学習の基礎・基本をしっかりと学習できる学校 ・地域の人々に親しまれる学校
- 3 めざす教師像 ・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師 ・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師 ・家庭と地域に信頼される教師
- 4 本年度の重点取組 (1) 学力の向上 (2) 豊かな人間性の向上 (3) 健康の増進と体力の向上 (4) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校
- 5 本年度の研究テーマ 「自分の思いや考えを持ち、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～伝え合う力（聞く・話す・話し合う）を育てる授業づくり～

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員3名
育友会長・副会長
学校：校長、教頭
開催：第1回 平成26年6月4日（水）
午前10時～12時
若葉小学校 校長室
第2回 平成27年2月19日（木）
午後5時～7時
若葉小学校 校長室

- 6 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である

(1) 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する	・ 学習到達度調査や全国学力学習状況調査の詳細な分析により課題を明確に捉え、全教員による校内研究授業・事後研究会や学力向上クリエイト事業等の活用により一層の授業改善に取り組み、学力向上を図った。また、家庭との連携のもと自主学習ノートを活用し、家庭学習の定着と主体的に学習に取り組む態度の育成を図った。	3.0	・ 今年から自主学習ノートの取り組みを始めたが、家庭との連携が十分とは言えなかった。保護者に十分な説明を行い、連携して家庭学習の習慣と主体的な学習態度の育成を図りたい。基礎学力向上のために、朝と昼の学習タイムの効果的な活用を探る。	・ 授業はわかりやすく、ていねいに行われている。授業がわかると子どもたちは学校が楽しくなる。また、頑張り先生に評価してもらうことが子どもたちの励みとなり、次につながっている。
特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	・ 特別支援コーディネーターを中心に、特別な教育的支援を必要とする児童に関して、毎月の職員会の児童理解の時間に全職員が共通理解し、全校体制で特別支援教育に取り組むと共に、特別支援学級在籍児童に交流や共同作業を積極的に取り入れ、児童の主体性の育成を図った。		・ 特別支援学級在籍児童の交流や共同作業を、交流学級以外の全学年に積極的に広げ、自立や社会参加に向けた主体性の育成を一層図る。	・ 先生たちはとても一生懸命やっていると思う。学力の定着には、学習の積み重ね・家庭学習の習慣化が重要であり、保護者の協力・家庭との連携が不可欠である。
校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	・ 学びの連続性や系統的指導・支援を念頭に、教職員の小中合同研修や情報交換会、児童生徒の交流等、校種間連携の取り組みの継続・発展を図った。		・ 小学校の授業研究に、中学校の教員も参加するなど学習面での連携の取り組みを推進し、学びの連続性や系統的指導・支援につなげる必要がある。	・ 家庭学習を継続させる取り組み、活用力をつける取り組みをさらに進めてほしい。
				（関係者評価：3.5）

(2) 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める	・ 道徳の時間を軸とし、教育活動全体を通して道徳性の育成を図った。集会活動では異年齢集団交流を通して自尊感情を育み、互いに尊重し合う良好な人間関係の構築に努めた。	3.0	・ 学級内の小さなトラブルも担任だけでなく、学団や管理職が関わって問題解決に当たっている。道徳の授業を軸に、教師自身が規範となり、教育活動全体を通して、児童の道徳性の育成・良好な人間関係をつくる態度の育成に努める。	・ 赤ちゃん時のことを取り上げた道徳の授業では、親子で当時のことを振り返って話をする機会が持て、心が触れ合うとても感動的な時間となった。
基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る	・ 生活実態調査の結果を分析・活用し、家庭との連携・協力の下、基本的な生活習慣を確立させ、問題行動の抑止を図った。スマホの使い方等情報モラルの講演会を開催し、保護者・児童に対して啓発に努めた。		・ 一学期に、保護者・児童を対象にスマホの使い方等情報モラルの講演会を開催したが、年間通して各クラスでも、情報モラル教育を継続していく必要がある。	・ 心の教育の成果は、なかなか数字で出てくるものではないが、祭りややすもう大会など地域とつながる行事に参加することで心の教育はなされていると思う。行事に参加する子どもたちはとてもきちんとしており、規範意識が培われていると感じる。
相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る	・ SSWの活用など保護者の相談体制を整えると共に担任だけでなく学校全体で支援体制をとり、不適応行動等の早期発見・早期対応のための予防的取り組みを推進した。		・ SSWを活用して学校全体で担任・保護者・児童の支援体制を整えることはできたが、中学校との連携のもと、もっとSCを活用した相談体制を充実させる必要がある。	・ 朝、連絡もなく登校していない児童がいれば、すぐに保護者に連絡したり、家まで迎えに行くなど、学校全体で不登校の未然防止に取り組んでいることは、非常に評価できる。
進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	・ 行事や体験活動など様々な教育活動を通して、学ぶことや働くことの意義を考え、夢や目標を持って、主体的に将来の進路を選択する能力や態度の育成を図った。		・ 地域行事への参加を通して、地域の一員としての自覚や適切な勤労観・職業観等の育成も期待される。教職員の積極的な参加も促していく。	
				（関係者評価：4.0）

(3) 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 「食育」の全体計画・指導計画をもとに食育の充実を図った。日々の給食指導、「食育だより」やお昼の「給食放送」等を通して、児童や保護者へ「食」に関する正しい知識の啓発に努めた。家庭と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」運動を通して、望ましい生活習慣の育成を図った。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士がいないこともあり、各学級での「食」についての学習が不十分である。「食育」担当教諭を中心に、西小の栄養士とも連携して担任の食育指導を進める必要がある。 教師が率先して運動場に出て行くなど、外遊びの奨励に一層努める。体育の授業に関して、体育主任のもと、低・中・高の指導事項をもっと明確にし、縦の系統性を踏まえた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の給食指導、給食放送や食育だよりなど食育の充実が図られている。行事食や給食献立の栄養について子どもが家で話題にすることもあり、食育の指導が推進されていると感じる。 体育大会やすもう大会などの体育的行事において、給水時間をきちんと確保するなど、児童の健康に対してきめ細かな配慮がなされている。児童の健康に関する教職員の意識が非常に高い。 <p>(関係者評価：3.0)</p>
体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間、教師が率先して運動場に出て児童と遊ぶ、昼休み、校内放送で外遊びを呼びかけるなど外遊びの奨励や体育的行事の充実に取り組む、運動する楽しさや喜びを体感させ、体力・運動能力の向上に努めた。 			

(4) 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域、関係機関と連携して、自転車教室等を通して安全指導を徹底すると共に通学路や校内外の安全点検、見守り隊等による児童の安全を確保する取り組みを進めた。また、不審者対応訓練・AED講習会・救急救命講習会を実施し、教職員の危機管理意識の強化を図った。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育に関しては充実した取り組みを進めているが、児童が不審者に襲われる事件を想定し、児童向けの安全教室として不審者対応訓練を実施する必要がある。 防災教育・避難訓練など充実した取り組みを進めており、教職員の危機管理能力の向上が図られているが、保護者に対してももっと啓蒙していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練は何よりも体で覚えることを第一に、回数を重ね、続けることで意識を高めていくことが大切である。 避難訓練では、もっと子どもたちに危機感を持たせ、緊張感を持って臨めるように、教師側にも強い意識と姿勢が必要である。それがいざという時、子どもたちが思い起こすことにつながる。 不審者対応について、子どもたちにも意識を持たせるような取り組みをしてほしい。 <p>(関係者評価：3.5)</p>
防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 年3回、避難訓練（火災、予告なし火災、地震・津波）を実施しているが、家庭・地域と連携したより実践的な防災教育の充実を図り、市の津波一時避難場所（アマドゥ屋上）への津波避難訓練を実施した。学校災害対応マニュアルを見直し、職員全体の危機管理能力の向上に努めた。 			

(5) 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 大学講師招聘による指導力向上研修など校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図った。また、授業改善アドバイザーの活用等により若手教職員の育成を学校全体で取り組むと共に、教職員の協働体制を整えて、学校の組織力向上に努めた。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> OJTによる若手教員の育成を学校全体でさらに進めると共に、小規模校ゆえに教職員が少ない分、統合に向けて一層の協働体制を図る。 参観・懇談やクリーン運動・防災訓練などへの保護者の参加を促す働きかけを続けると共に、保護者が参加しやすいよう、行事の持ち方を工夫する。 オープンスクールや行事ごとの保護者アンケート、学校評価児童アンケート・保護者アンケート等をさらに工夫し、学校評価の充実を一層図る。その上で、PDCAサイクルに沿って学校評価を学校運営につなげ、一層の改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生ボランティアは、年齢的にも子どもたちに近く、親しみやすい存在で、子どもたちはとても喜んでいる。 行事ごとの保護者アンケートの回収率が高く、たくさんの意見が寄せられていることは、それだけ保護者が学校に関心を持っているということであり、よいことである。 地域行事に子どもが参加すれば、親が見に来る。地域が親子の顔を覚えることから、不審者対策にもつながっていく。学校・地域・家庭の連携が安全につながる。 <p>(関係者評価：3.5)</p>
地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティア、学生ボランティア等を積極的に活用し、教育活動の充実を図った。学校通信、HP、掲示板等により、本校の教育活動を外部に情報発信すると共に、オープンスクールや学校行事等開かれた学校づくりを推進した。 			
学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールや行事等来校の機会を生かして学校評議員の意見を求め、また、学校関係者評価委員会を年2回開催して意見の集約を行い、学校評価の充実を図った。また学校評価を活用して全職員で教育活動の成果を検証し、学校運営の改善に生かした。 			

(6) 教育目標

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに学校教育目標を全教職員が共通理解し、その達成に向けた教育活動を推進すると共に、学校通信・HP・掲示板等で、保護者や地域に情報を発信した。 	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体としての指導の共通認識を高め、取り組んでいくためのカリキュラム作成をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標が学校全体で共通理解され、その達成に向けて全教職員がとてよく頑張っている。その指導の積み重ねが十分な成果となって現れている。 <p style="text-align: center;">(関係者評価：4.0)</p>
教育目標の具現化と指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年度初め全教職員が学校教育目標達成に向けた経営案を作成し、学級目標等で児童にも意識させながら、指導の充実を図った。 		<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じて具現化した教育目標（学級目標など）を常に児童に意識させながら、指導の充実に一層努める。 	

(7) 研究テーマ

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ「伝え合う力」の達成に向けて、国語科だけでなく全教科を通して言語活動の充実を図り、教育活動を展開した。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 研究の進め方に関して、方向性をしっかりと定め、共通理解のもと、児童の力を伸ばしていく教育活動の展開に一層努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会選挙にたくさんの子どもたちが立候補し、選挙運動や立会演説会で積極的に活動した。目標を持って頑張ることで、自信や励みになり良い経験だったと思う。 さまざまな教育活動の中で、子どもたちの自己表現の場をたくさん設けているのはとても良いと思う。 <p style="text-align: center;">(関係者評価：3.5)</p>
研究テーマの具現化と指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教科以外、特別活動などの児童の活動にも「伝え合う力」が発揮できるよう、児童に意識させながら指導の充実に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科だけでなく、特活（委員会活動）など教科外での児童の活動においてもさらに検証し、指導の充実に一層努める。 	

※ その他の学校関係者評価

(A：優れている B：適切である C：おおむね適切である D：要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B